

YOSAN No.35

広報よさの



2009

1

特集 新春あいさつ
連載最終回 あたらしい福祉のカタチ

●今月の表紙
岩滝幼稚園の正月飾りづくり (12月15日撮影)

広報よさの 1 2009 No.35

発行：与謝野町役場 編集：企画財政課
住所：〒629-2292 京都府与謝野郡与謝野町字岩滝1798番地1

TEL：0772-46-3084 (直通) URL：http://www.town.yosan.lg.jp/
FAX：0772-46-4630 E-mail：kikakuzisei@town.yosan.lg.jp

まだ記憶に新しい、北京オリンピック・女子ウエイトリフティングでの齋藤里香選手の活躍。

その齋藤選手も高校時代に出場した「アジアユースウエイトリフティング選手権大会」(12月4日～7日/韓国・全州市)で、加悦谷高校ウエイトリフティング部が誇る双子姉妹が快挙を達成した。女子63kg級に日本代表として出場した姉の都加さん(2年)がジャークで優勝。69kg級に出場した妹の妹加さん(同)はトータル(ジャーク・スナッチの合計)で2位に入った。ともに国際大会は初出場。「日本の大会とは雰囲気がちがった」と都加さん。スナッチではよもや3回の失敗で記録なしに終わったが、ジャークでは自己ベストを3kg更新する95kgを挙げて優勝に輝いた。一方、妹加さんは、スナッチ、ジャーク合わせて6回の試技の内5本を成功しての2位という結果に、「結果はまずまず。外国人選手の扱う重量が違ったのでいい刺激になった」と大会を振り返った。

2人がウエイトリフティングと出会ったのは中学3年の時。競技を始めた

加悦谷高校ウエイトリフティング部

尾崎都加さん・妹加さん ウエイト界期待の双子姉妹

よさの人
Vol.10



おざきみやか(左)・まいか(右)
平成3年生まれ。石川在住。都加さんの自己ベストはスナッチ73kg、ジャーク95kg。妹加さんはスナッチ76kg、ジャーク91kg

のは高校入学後とその経験は浅い。江陽中時代は、都加さんは陸上、妹加さんはバスケットボールと、別々の競技で汗を流していた。転機が訪れたのは3年生の夏休み。妹加さんが先生のすすめで加悦谷高校ウエイトリフティング部に体験入部した。

その時の印象を「骨格がちがっちりしていて、身体能力も高かった」と語る顧問の川畑勉先生。さらに姉がいることを知った先生は「チャンピオンにしてやる」と都加さんを口説き、2人は同じ道を歩み始めることになった。

先生の見込みどおり、高校入学後めきめきと頭角を現した2人は、昨年7月の「全国高等学校女子ウエイトリフティング競技選手権大会」を2年生ながら制し、「平成20年度京都新聞ジュニア・スポーツ賞」も受賞した。今では、2人の活躍にあこがれた近所に住む石川小の児童が同じ練習場で競技を始めている。

「普段は競技の話はしないし、試合では自分の競技に集中しているので、お互いの結果を気にすることはない」と口をそろえる2人。競技を離れば、普通の姉妹。休みの日は一緒に外かけて気分転換をはかる。だが、今回初めて国際大会に出場して「姉妹だから心強い部分はあった」と選手としてお互いが精神的な支えとなっていることを改めて実感したという。

「まずは3月の選抜大会で優勝することが目標。ただ、1位になっても記録が低かったら意味がないので、自己記録を狙っていく」と力強く話す尾崎姉妹の活躍に今後も目が離せない。



ウエイトリフティング競技の尾崎姉妹が優勝と入賞の報告に来庁



二千人が手と手をつないだ世界遺産登録推進運動「HAND in HAND」



「交通安全を願い行われた地域安全パレード」



野田川、加悦、岩滝をタスキでつないだ「第一回与謝野町駅伝競走大会」

住民が輝けば、まちは輝きます。



明けましておめでとうのご挨拶

明けましておめでとうございます。新しい年をお健やかに迎えられたこととお喜び申し上げます。昨年は与謝野町においては自然災害のない穏やかな一年でしたが、ご承知のとおり、アメリカのサブプライムローン問題に端を発した金融不安が世界中に広がっており、百年に一度の津波と言われるほど大変な状況に陥っています。こうした世界経済の減速に伴い、外需に依存してきた日本経済は、今までも増して深刻な時期を迎えており、報道されているとおり、大手製造業においても派遣労働者をはじめとする大量解雇の問題も発生しています。与謝野町においても、従来の不況に加えて、こうした金融危機の影響を受け、中小零細企業の経営に悪影響を及ぼすとともに、皆様の生活にも今までにない大きな不安を与えているのではと察じています。

すばらしい活躍と自主的で活発な取り組みがありました。

昨年を振り返りますと、各界や地域では、すばらしい活躍や取り組みがありました。スポーツ界では、「都道府県対抗女子駅伝」で木崎良子さんが京都代表として優勝に貢献し、鈴木亜弥子さんは大阪代表としてラストランを務められました。また西原加純さんは「アジアジュニア陸上」「世界ジュニア陸上」で入賞されるなど、日本を飛び出し世界でも活躍されています。さらに、「全日本マスタース陸上」では、須川好教さんが六十メートルで日本新記録を樹立し、二百メートルでも大会記録で優勝されました。小・中・高生も各種目で全国大会に出場し、それぞれがすばらしい成績をあげておられます。極めて、加悦谷高校出身の齋藤里香さんの「北京オリンピック」での活躍です。加悦谷高校創立六十年目にして初めてのオリンピック選手となった齋藤さんは、ウエイトリフティング競技のジャークで自己の日本記録を更新する百二十二キログラムを挙げて見事八位に入賞されるという快挙を成し遂げられ、多くの人に勇気と感動を与えてくれました。そして、齋藤さんの活躍に続けとばかりに、加悦谷高校の尾崎都加さん・妹加さん姉妹も「アジアユース選手権」で好成績をあげられました。農業面では、平成十九年産米の「丹後コシヒカリ」が全国食味ランキングで新潟県魚沼産と同じ「特A」に評価されたり、おからや魚のアラなどから作った有機肥料「京の豆っこ」で育てた与謝野町ブランド米の「京の豆っこ米」が大手スーパーで販売開始となるなど、循環型農業の推進に弾みのついた年でした。

また、地域の宝である天橋立を世界遺産にする運動も見逃せません。民間の団体と近隣の住民、そして市町・府などがいっしょになり、天橋立を二千人以上の人たちが手と手をつなぎ取り組んだ世界遺産登録推進運動「HAND in HAND」をはじめ、ボランティアの清掃や小学生が取り組んだEM菌泥団子の阿蘇海への投入など、息の長い地道な活動を再確認する年でもありました。イベントでは、商工会青年部が取り組まれた「楽食楽座innよさの」や、体育協会主催の「与謝野町駅伝競走大会」など自発的な取り組みがスタートした年でした。

町の施策では、「総合計画」や「行政改革大綱」を具体的に実行に移した一年だったと思います。「与謝野町男女共同参画計画・男女の和づくりプラン」が完成し、「知る」ことからはじめる意識づくりがスタートし、福祉分野では「地域福祉空間整備事業」により、地域密着型の福祉施設が次々と誕生しました。そして、準備を進めている「町営バス」の愛称と車体のデザインが決まり、また今後のネットワーク基盤の方向を示す「与謝野町地域情報化推進計画」を策定すると並行して、情報の道「光ファイバー網」構築の検討に入った年でもありました。

私自身にとっては、「ブラジル移住百周年記念・京都府訪問団」の一員として、山田知事らと共にブラジルを訪問し、京都出身の日系の方々や「京都文化・産業フェア」や交流を通じ、その任務を果たせたことや、秋の園遊会に招かれ、赤坂離宮で天皇・皇后両陛下や宮様方、招待を受けた北京オリンピック出場選手の方々と身近にお会いする機会をいただくなど、人生の中で二度とない経験をさせていただいた年でした。



町内24地区で開催した「町政懇談会」では、延べ719人の多くの皆さんに参加いただきました



「サポートかやおく」は、高齢者世帯などをまとめた「安心見守りマップ」を作成しました

「協働によるまちづくり」に 確かな手応え

■新しいまちづくりの始動

住民の多くの皆様のご支援により、平成十八年四月に与謝野町初代町長に当選させていただいて早いもので二年と八カ月が経過しようとしています。そして、平成二十一年度は一期目の最終年度を迎えることとなります。

町長選挙の出馬に際しましては、五つのテーマからなる百七の項目を「ローカル・マニフェスト」として皆様にお示しし、就任以降、実現に向けて精一杯努力をしてきました。ローカル・マニフェストでは、掲げた五つのテーマを具現化するために、幸せを運ぶ四つの「わ」で結び合わせることをまちづくりの基本としました。

- 融和やなごみの「和」
- 交通や情報ネットワークの「輪」
- 環境や循環の「環」
- 対話と住民目線の「話」

そして、昨年「実行の年」と位置づけ、職員一丸となり取り組んでまいりました。

【町政懇談会の実施】

二十四地区で三年続けて開催しています。多くの町民の皆様と直接対話することにより、町のまとまりや結束を強めることにつながり、職員にとっても「新町の職員」という自覚や意識改革を図るための職員研修の場ともなっています。

【住民アンケートの実施】

総合計画作成に向けて実施した住民アンケートで

■産業振興と雇用の確保

平成二十年度中に「観光振興ビジョン」を策定し、町内の観光資源の活用や観光産業の創造を図るとともに、広域圏での企業誘致を視野に入れた「産業振興計画」を平成二十一年度に策定します。また、生活実態調査を行い、「暮らしの下支え」について全庁あげて取り組む考えです。

「京の豆っこ米」も引き続き販路の拡大を図り、品質の向上に努めます。

■安心・安全のまちづくり

各小中学校の校舎・体育館等の耐震化工事を実施しており、子どもたちが安心して学校生活を送れるように環境整備を行っています。今年度には75%の改修率となる見込みです。

また、新規施策として「木造住宅耐震改修事業費補助金」を創設しており、国、府との共同事業として、安心・安全のまちづくりを引き続き目指します。

■環境対策

環境対策の一環として、NPO法人で取り組まれている廃食用油を活用したバイオディーゼル燃料を公用車で使用していますが、使用台数を拡大するための燃料給油施設を整備しました。

また、役所内の事務・事業に関して、温室効果ガスの排出抑制を行うための「地球温暖化対策実行計画」を今年度中に策定し、全庁あげてCO₂削減に向けた取り組みを進める計画です。

は、町民の皆様がどんな町を望まれているのかをお聞きし、まちづくりの方向性を次のとおり明確にし、まちの羅針盤となる総合計画の柱としました。

■ お年寄りから子どもたちまでが安心・安全に暮らせる町

■ 福祉や教育の環境整備

■ 地元産業の活性化と雇用の確保

■ 無駄のない行財政

【公民館活動の前進】

新町になり力を注いだ事柄に、公民館活動の強化があげられます。活動活性化のためにモデル地域を設定させていただき、それぞれの地域で新たな芽が育ちつつある状況です。

モデル地域となった男山地区の公民館活動では、「後期高齢者医療制度」の説明会が開催され、新しい制度について学習が深められました。今後は災害時の連絡体制や組織づくりを計画されています。また、加悦奥地区では、区内のさまざまな団体で自発的に「サポートかやおく」を組織し、高齢者世帯などをまとめた「安心見守りマップ」を作成したり、女性の団体が「できることから」とEM菌を使い加悦奥川の浄化を図ったりしております。

公民館を拠点に生涯学習を通じ、地域課題の発見や解決に向けて、お互いに支え合い、交流しながら活動されているといった新しい地域づくりがはじまっています。

■福祉とふれあいのまち・与謝野町

【あたらしい福祉のカたち】

「福祉の里づくり」の考え方や新町の「安心どこで

「京の豆っこ米」は平成19年12月より、食育と地産地消の観点から学校給食でも使用されています



障害者グループホーム・ケアアホームに併設された「弁当工房」



京都府ブラジル訪問団（日伯修好百周年記念植樹之碑の前で撮影）

与謝野町長
太田 貴美
おた かつみ



■やるべき仕事を進め、財政の健全化へ

平成二十年度当初予算では財政調整基金から一億円の取り崩しを行い、財源調整をしています。しかしながら、合併後過去二年間では当初予算計上時に取り崩し予定ではあったものの、決算では結果的に積み立てることができ、二年間で約四億千七百万円を積み立て、平成十九年度末で約十一億千七百万円の積み立てとなっています。平成二十年度についても財政調整基金から取り崩すことなく財政運営ができるよう努めていきたいと考えています。

このように、若干ではありますが、財政状況は健全化の方向へ前進したものと確信しています。それは、合併にあたって真剣な議論を徹底して行ったこと、新しいまちづくりの基本をハコモノのハード事業ではなくソフト事業に置いたこと、また職員の協力のもと行政の効率化と人件費の抑制を進められたこと、これらが財政健全化へ向かう一歩となったと考えています。

■総合計画と明日の与謝野町

総合計画は多くの皆様に協力いただき策定をした計画です。その特長は「住民との協働によるまちづくり」であり、確実に進んでいる少子高齢化社会や厳しい経済情勢の中で、この町で安心して暮らしていくためには何をしなければいけないのか、また将来を担う子どもたちに何を残さなければいけないのかを町民の皆様と一緒に考え、ともに進んでいきたいと思っています。さらに、今年には京都市内の大学と連携し、まちづくりの知恵や力をお貸しいただくことも考えています。

一期四年の仕上げと次の展開に向けて

マニフェストに掲げた百七の項目については、平成十九年度までの達成状況を町ホームページに掲載しています。達成状況につきましては、今の段階で約七割ではないかと思いますが、ローカル・マニフェストを進めるためには、今以上に多くの町民の皆様の思いに耳を傾けることが必要だと考えています。例えば、町政懇談会には圧倒的に男性の参加者が多く、女性や若年層の参加者が少なく感じますし、商工業者の方たちだけではなく、町内の誘致企業の人たちとも一緒にやって意見交換ができる場が必要だと感じていますので、多くの皆様との意見をキャッチボールをする場を今以上に設けていきたいと思っています。また、生活実態調査を行い、今の状況を確実に把握したうえで施策に反映させたいと考えています。

平成二十一年度は、任期一期目の最終年度を迎えることとなります。ローカル・マニフェストの達成状況を確認しつつ、引き続き「持続可能な与謝野町」の実現に向け、また、町民の皆様が与謝野町に住んでよかったと思っただけのように、精一杯努力したいと思っています。

まちづくりの主人公は、そこに住む住民であり、住民が輝けばまちは輝きます。今後も住民の皆様と協働のまちづくりにまい進いたします。いい町となりますよう皆様のお力やお知恵をお貸しください。今年も皆様にとって良い年でありますように。

安心安全で持続可能なまちづくりを軌道に



与謝野町議会議長
森本 敏軌
もりもと のしのり

町民の皆様、新年明けましておめでとうございます。

皆様には輝かしい平成二十一年の新春をご家族おそろいで健やかに迎えのことと心からお慶び申し上げます。

日頃から町民の皆様には議会活動に對しまして、温かいご理解とご支援を賜り心から感謝を申し上げます。

昨年を振り返り見ますと、三位一体改革による交付税の減額などにより、地域間格差が顕著となり、国土を守っている与謝野町など地方は一層厳しい状況に追い込まれ、さらに、住民生活も原油の高騰により深刻な影響を受け、厳しい年でありました。

また、日本を取り巻く食品の偽装問題や子どもたちのネットを通じたいじめの実態、振り込め詐欺、無差別殺人などが発生し安心安全が脅かされ、改めて安心安全の確保の重要性を痛感する年であったと思っております。

さらに、アメリカに端を発した金融危機が日本を襲い、景気後退の兆しが強まり、与謝野町の織物業、商工業など地域経済への影響も大きく、雇用の低迷など深刻で一層厳しい年ではなかったかと思っております。

与謝野町は合併をして三年目を迎えた年であり、旧三町の垣根が少しずつ取り払われ、第一回の町内一周駅伝競

走大会が開催されるなど、町民相互の融和と一層の一体感の醸成が図られてきたと認識いたしております。また、地域産業もさらに厳しい状況にあり、町の税収も少なく行政運営も厳しい中ではあります。行政の効率化を図りながら、住民福祉の向上と安心安全なまちづくりを図るため、策定された行政改革大綱と総合計画の遂行元年として、持続可能な与謝野町への第一歩を踏み出した年でありました。

迎えました平成二十一年は、合併四年目を迎える年となります。世界的な経済不況に陥っており、先行きの不透明感が増し社会全体が冷えきっている中、与謝野町においても行政運営、また、住民生活の面でも一層厳しいことが予測されますが、「水・緑・空笑顔かがやく ふれあいのまち」をモットーに、自助・共助・商助・公助の精神で、行政改革と総合計画の着実な遂行を図りながら、農業、織物業、商工業など産業の振興や少子高齢化対策、教育、福祉、医療などの充実、環境対策など抱えています諸課題に果敢に立ち向かい、住民の付託に応えるべく議員一同議会としての役割を果たしていく次第です。

また、本年はいよいよ三月から町営バスが運行の運びとなり、地域の皆さんの通学や買い物、通院など幅広く利用されることを願っております。さらに、今日まで懸案でありました、

情報通信網の整備について、有線テレビが野田川、岩滝地域へ拡張工事が進められる運びとなり、平成二十二年には放送が開始される予定であり、情報の共有と、テレビのデジタル化や難視聴地域の解消、インターネットへの接続に大きく寄与するものと考えております。

加えて、防災行政無線の整備も年次計画が立てられており、安心安全のまちづくりの推進が図られるものと期待をいたしております。

議会といたしまして、地方分権時代を迎え、自治体の自主的な決定と責任が拡大した今日、自治体事務の立案、決定、執行、評価における論点、争点を広く町民に明らかにする責務を有しており、議会機能を発揮し、論点、争点など積極的に情報をお知らせし、町民の皆様身近な信頼される議会を目指さなければなりません。

議員の任期もあと二年少々となり、残されました任期、議員一丸となり山積いたします課題克服と住民福祉の向上に努めて参る次第です。町民の皆様のご指導、ご鞭撻を心からお願ひ申し上げます。

結びに、今年一年が与謝野町にとりまして良い年であり、町民の皆様にとりまして、ご健勝で幸せ多い年でありますよう心から祈念いたしまして、年頭のご挨拶といたします。

化学物質過敏症とは
化学物質過敏症は、一度に多量の化学物質に暴露（科学物質を浴びること）されたり、少量でも長期に渡って暴露され続けたりすることによって、その人の体の許容量を超えたときに、拒否反応として一気に発症するといわれています。

ただ、化学物質への感受性は個人差が大きいため、同じ環境にいても発症する人としない人がいます。一度過敏性を獲得してしまうと、

困っている人がいます

最近、「化学物質過敏症で香料に苦しんでいる。公共施設で香料自粛ができないだろうか」との声を聞きました。

また、以前から「農薬散布の時期になるとアトピー性皮膚炎がひどくなる」「トイレや室内の芳香剤に反応してアトピー性皮膚炎がひどくなる」「リフォームした後、体調が悪くなった」などの声を聞くこともありました。

身のまわりにある、さまざまなものに使われている化学物質。その影響で苦しみ、「仕事ができない」「学校に行くことができない」など、通常の生活ができずに困っている人がいます。今月号では、そんな「化学物質過敏症」について考えてみたいと思います。

その後は、ごく微量の化学物質に接触しただけで強い拒否反応を繰り返すようになります。たいていは、発症のきっかけになったものだけでなく、それ以外のさまざまな化学物質にも反応を示すようになります。

それまで全く異常がなかったのに、あるときを境に突然発症する花粉症と同じように、誰にでも突然化学物質過敏症になる可能性があるといわれています。

主な症状

- ◎目・鼻・のどの刺激感、臭覚異常
- ◎息苦しさ、喘息
- ◎頭痛、倦怠感、疲労感
- ◎集中力・思考力の低下
- ◎目のかすみ、視力低下、めまい
- ◎関節痛、筋肉痛
- ◎不安、不眠、うつ状態
- ◎腹痛、下痢
- ◎湿疹、じんましん、かゆみ
- ◎動悸、息切れ、不整脈
- ◎反応を引き起こす主なもの
- ◎防虫剤類、殺虫剤



シックハウスの原因となる化学物質の室内濃度を下げるため、建築物に使用する建材や換気設備を規制する改正建築基準法が平成15年7月1日に施行されています

発症の主なきっかけ

- ◎新築やリフォーム（シックハウス）
- ◎入園や入学（シックスクール）
- ◎転勤や職場の配置転換（シックビル）
- ◎近隣の農薬散布
- ◎新しい家具や電気製品の購入

子どもへの影響

化学物質の中でも空気より重い化学物質は地面や床近くに溜まっています。その低い位置の空気を吸っている子どもは大人より化学物質を多く取り込んでいます。

また、脳や体の発達が未熟なほど取り込んだものの影響を大きく受けます。今の大人たちが子ども時代を過ごしてきた頃より、身の回りの化学物質は圧倒的に増えてきており、今の子どもたちが化学物質から受ける影響や危険はとても大きいといわれています。

私たちにできること

私たちにできること、それは、まず化学物質過敏症に苦しむ人がいることを「知る」ことです。

そして、身近に化学物質過敏症の人がいたら、できるだけ化学物質を減らすよう協力することが大切です。例えば、「香料に苦しんでいる」という人には、香水や整髪料を控えたり、室内の芳香剤の使用を避けたりしましょう。

化学物質過敏症はいつ発症するか分かりません。予防法は確立されていませんが、化学物質にできるだけ暴露されないためにも、より安全な生活習慣を心がけたいものです。

※訂正とお詫び 11月号の本コーナーの本文最終行が抜けておりました。次のとおり追加訂正しお詫びします。正しくは「禁煙のきっかけづくりができます。」となります。



火事を出さない
出させない
をスローガンに
予防消防の徹底に努めます

与謝野町消防団長
谷田 久典
たにだ ひさのり



あけましておめでとうございます。新年をご家族揃いでお健やかに迎えにいられたこと心からお喜び申し上げます。

町民の皆様には、日頃より消防団活動に對しまして、格別のご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、昨年四月から新体制となり、「火災ゼロの町・与謝野町」を目指して消防団活動を実施して参りましたが、昨年は町民の皆様のご協力により火災発生件数は一昨年より三件減少はしましたものの、九件の火災が発生しました。火災の原因は複雑多様化しておりますが、注意して火を取り扱うことにより出火を最小限に防ごうと出来

ます。消防団では引き続き「火事を出さない、出させない」をスローガンに防火意識の高揚を図るため徹底した予防消防に努めて参ります。

また、昨年は自然災害では、二〇〇〇年以來八年ぶりに日本への台風上陸が無く、幸いにも当町管内におきましても、大規模な災害は発生しませんでした。しかしながら、五月には中国四川省において大地震が発生し、六月には岩手・宮城内陸地震が発生、ミャンマーではサイクロンが猛威を振るい、八月には愛知県岡崎市において大雨被害が発生しました。近年はゲリラ豪雨など、自然災害はいつどこで起きてもおかしくない状況で、

災害を予測することが非常に困難となっております。町民の皆様におかれましては日頃から災害に対する意識と備えを十分に願いたいと存じます。

我々消防団は、日夜、消防防災の要として活動しているところですが、消防団を取り巻く社会的環境は近年大きく変化し、自営業の団員が減る一方、会社員等の団員が増え、新入団員や昼間の火災等に出勤する団員の確保が難しいなど大変厳しい状況にあります。しかしながら、近年の災害発生現場において、多数の消防団員が目ざましい活躍をし、その重要性が改めて認識されています。

本年もこれら消防力の確保とともに、町民の皆様の生命と財産を守り「自分たちの町は自分たちで守る」という消防精神のもと、団員一丸となってさらなる努力と精進をして参る所存であります。町民の皆様のお一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、町民の皆様のご健勝と、本年が災害のない平穏平和な年でありますよう心からご祈念申し上げます、新年のご挨拶いたします。



火災ゼロのまち・与謝野町を目指し
本年も活動してまいります
与謝野町消防団 団員一同

平成20年度全国統一防火標語「火の始末 君がしなくて 誰がする」

与 謝野町の皆さん、明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願いいたします。

日本でお正月を迎えるのは、今年で2回目になりました。今になって考えますと、日本とイギリスのお正月では違うところがたくさんあります。

私が母と香港からイギリスのスコットランドに引っ越したのは11月でしたので、そのすぐ後に、初めてスコットランド風のお正月を迎えました。その時は外国のやり方にびっくりしてしまい、今もその時の心の衝撃を忘れられません。なぜならば、大晦日に母とエディンバラ市の中心に行った時、たくさんの人出があって、その全員がカウントダウンしていて、24時になったその瞬間、エディンバラ城や近くの小山からぱつと花火が開いて、そして、全然見知らぬ人に新年のあいさつだということで、ぎゅっと抱き締められて、その上、頬にキスされました！本当に気恥ずかしかったです。この経験の影響か、ただ外の寒さを避けるためか、その後の私は毎年家のテレビで新年の番組を見ながら新しい一年を迎えることになりました。

スコットランドでは大晦日のことを「Hogmanay」（ホ

グマネイ）と言います。Hogmanayはカウントダウン行事の起源ともいわれ、中でも一番有名なHogmanayはエディンバラ市ですから、演奏会やコンサート、パーティーなどを見に行く観光者が多いです。

皆さんは「蛍の光」と言う歌をよく知っておられると思いますが、この歌はもともとスコットランドから来たことをご存知でしょうか。この民謡は英語で「Auld Lang Syne」（オールド・ラング・ザン）と言い、歌詞はスコットランドの詩人口パート・バーンズが1788年に書いた詩に基づいて書かれました。標準語の英語ではなく、昔のスコットランド語で書かれていたもので、英語を母語として話す人にさえ分かり難いです。「Auld Lang Syne」は、「懐かしい昔」の意味で、会の終わりやお別れの場合によく歌われます。Hogmanayの時も行く年を送るために、皆が輪になって、歌の最後には手をつないで一緒に歌います。

もし皆さんが偶然私の家の近くを通った時に「蛍の光」の曲が聞こえたなと思ったら、それは多分、私が2008年に「さよなら」と言っていたのです。ひどい歌声で申し訳ございませんでした。



「初めて書初めをしました。日本流のあいさつやお辞儀などのマナーを忘れないことが今年の目標です」

時の贈り物 [第33回 倭文神社の本殿]

まちの文化財



倭文神社本殿
●場所 与謝野町字三河内小字中坪
●指定等 【本殿】京都府登録有形文化財（建造物）平成8年3月15日登録
【境内】京都府文化財環境保全地区 平成9年3月14日決定

（与謝野町教育委員会）

河内地区のほぼ中央に位置する倭文神社は、織物を始めた祖神とされる天羽槌雄神を祭る旧府社です。神社の創立は明らかではありませんが、当初は三河内の葦村に鎮座し、貞応二年（一一三三）鎌倉時代前半に現在の地に遷座したと伝えられています。江戸時代には石崎大明神と称していましたが、明治になって倭文神社と改められました。本殿は、東西に長い境内の西奥にあり、前に幣殿・拜殿を控えています。建物様式は入母屋造り、銅板葺きの一間社で、正面に唐破風を付け、縁が回っています。

例年、五月四日には三河内曳山祭が行われ、京都府登録文化財の曳山行事が執り行われています。例祭当日は、各町内の山屋台が倭文神社前に集結し、本殿前で神楽が奉納されます。

図書館へ行こう！

BOOKS

あけましておめでとうございます。昨年は図書館をご利用いただき、ありがとうございました。町民の皆さんが身近に感じられる図書館を目指します。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

..... 今月のオススメの一冊



一般書

こんなに変わった！「日本史」偉人たちの評判

河合敦 / 講談社

今年の大河ドラマの主人公として俄然注目されている直江兼統。ですが、いつの時代のどんな人物だったか知らない人も多いはず。このような、とても有名だけど、日本史の教科書に登場しない人物や、時代とともに忘れられた偉人たちを紹介。時代の流れやメディアの取り上げ方などで、違う評価を受けてしまった偉人たちの姿を垣間見てみませんか。



児童書

エゾオオカミ物語

あべ弘士 / 講談社

北海道にいたエゾオオカミが、この世からいなくなったのは約100年前のこと。どうしてなくなってしまったのでしょうか。寒い寒い冬の夜、集まってきたモモンガたちにシマフクロウのおじさんが人間とエゾオオカミの歴史をすずかに語ります...

旭山動物園で25年間飼育係をしていた作者の動物や自然への思いが、ダイナミックな色彩と筆遣いで描かれています。

新着図書紹介

- 【一般書】●『ギネス世界記録2009』クレイグ・グレンディ/ゴマブックス ●『直江兼統の義と愛』火坂雅志/日本放送出版協会 ●『ゴーン道場』カルロス・ゴーン/朝日新聞出版 ●『文系のための環境科学入門』藤倉良/有斐閣 ●『鉄道101の謎』梅原淳/河出書房新社 ●『1日(ワンデイ)歳時記』金田一秀穂/小学館 ●『小林多喜二と「蟹工船」』河出書房新社 ●『悼む人』天童荒太/文藝春秋 ●『ザ・チョイス 複雑さに惑わされるな!』エリヤフ・M. ゴールドラット/ダイヤモンド社
【児童書】●『中学時代にしておく50のこと』中谷彰宏/PHP研究所 ●『名探偵コナン推理ファイル江戸の謎』青山剛昌/小学館 ●『0. 1ミリのタイムマシン』須藤斎/くもん出版 ●『たこあがるかな』秋山幸雄/福音館書店 ●『西のくま東のくま』石井睦美/佼成出版社 ●『空を飛んだポチ』杉山亮/講談社 ●『不幸な少年だったトーマスの書いた本』フース・コイヤー/あすなろ書房 ●『歯みがきがつくて億万長者』ジーン・メリル/偕成社 ●『はずかしがりやのれんこんくん』二宮由紀子(作)長野ヒデ子(絵)/童心社

..... 「おはなしといっしょに楽しむお菓子作り」参加者募集

絵本にはおいしそうなお菓子が描かれたものがたくさん。楽しいお菓子作りを通して絵本の世界に親しんでもらう「おはなしといっしょに楽しむお菓子作り」(子どもゆめ基金助成活動)を開催します。読み聞かせも行います。ぜひご参加ください。

- 日時/2月7日(土)午後2時~
●場所/生涯学習センター知遊館
●対象/5歳~小学生の児童とその保護者(保護者同伴で申し込んでください。対象年齢外、食品アレルギーのある児童は参加できません)
●募集人数/20人程度(応募者多数の場合は抽選)
●材料費/大人100円、子ども200円
●申込方法/1月29日(金)までに、電話で図書館へ申し込んでください。
●主催/与謝野町読み語り推進活動実行委員会



蔵書点検のための臨時休館のお知らせ

次の期間、図書館の蔵書点検を行います。休館中はご不便をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いします。

- <本館>
2月17日(火)~20日(金)4日間
<加悦・野田川分室>
2月12日(木)~13日(金)2日間

図書館おはなし会

- <本館>
1月10日(土)
①午後1時30分~ ②午後3時~
<加悦分室>
1月10日(土)午後3時~
<野田川分室>
1月17日(土)午後3時~

●問い合わせ先/与謝野町立図書館 ☎ 46-2451 加悦分室 ☎ 43-0376 野田川分室 ☎ 43-0087
●開館時間/午前10時~午後6時 ●休館日/毎週月曜(本館・加悦分室) 毎週火曜(野田川分室) 毎月最終木曜(共通)

福祉の現場や地域で活動する8人の「声」

司会 皆さん、本日は座談会にご参加いただきましてありがとうございます。それぞれの立場から与謝野町の福祉を支えていただいている皆さんにお話をいただく前に、現在町が進めている福祉施策について簡単に説明させていただきます。と思っています。少子高齢化や核家族化に加えて、経済が低迷し続けている与謝野町では、家庭介護力の低下が顕著となっております。さらに、地域のつながりも昔に比べますと希薄になりつつあります。そうした中で、与謝野町の福祉の今後をどう考えるか重要な時期になっていきます。平成十九年度に策定した「第一次与謝野町総合計画」では、「自助・共助・商助・公助」の精神を基本とし、「協働ですすめるまちづくり」「安心と生きがいのある福祉のまちづくり」などをめざすこととしており、福祉分野では、「子育てするならこのまちで」「介護予防サービス利用者の増加」「特別養護老人ホーム入居申込

者の減少」「障害者の就労の増加」などについて目標を掲げています。また、平成十八年度に改正された「介護保険法」では、地域密着型サービスが新設され、これまでの大型施設での福祉サービスだけではなく、住み慣れた地域で福祉を推進し、さらに介護予防を重視することにより、在宅生活を一日でも長く続けられるよう支援することとしています。同年度に施行された「障害者自立支援法」でも、障害者が地域の中で自立して生活できるように、就労支援の強化と生活支援の強化を図ることとしています。さらに、安心の観点から言いますと、災害時の要支援者対策も大きな課題です。しかしながら、これらのことを進めるには行政だけでは不可能であり、はじめに申し上げたように、「協働によるまちづくり」を町ぐるみで考えていく必要があります。そこで今回、与謝野町の「あたらしい福祉のカタチ」を考えるため、福祉現場や地域でご活躍いただいている皆さんにお集まりいただきました。この中で出されたご意見は、現在策定中の「高齢者福祉計画」「介護保険事業計画」「障害者計画」に反映さ

者の減少」「障害者の就労の増加」などについて目標を掲げています。また、平成十八年度に改正された「介護保険法」では、地域密着型サービスが新設され、これまでの大型施設での福祉サービスだけではなく、住み慣れた地域で福祉を推進し、さらに介護予防を重視することにより、在宅生活を一日でも長く続けられるよう支援することとしています。同年度に施行された「障害者自立支援法」でも、障害者が地域の中で自立して生活できるように、就労支援の強化と生活支援の強化を図ることとしています。さらに、安心の観点から言いますと、災害時の要支援者対策も大きな課題です。しかしながら、これらのことを進めるには行政だけでは不可能であり、はじめに申し上げたように、「協働によるまちづくり」を町ぐるみで考えていく必要があります。そこで今回、与謝野町の「あたらしい福祉のカタチ」を考えるため、福祉現場や地域でご活躍

立場から山口さんお願いします。山口 障害者福祉センター「夢織りの郷」の山口です。今年で開設十一年目を迎える夢織りの郷では、障害者の立場に立ち、障害のある人たちがどうしたら地域の中で、一人の人間として、本当に自立といえる当たり前の生活が送れるかということを考えながら日々やってきました。ただ障害の問題というのは、まだまだ特別というのか、差別まではいなくても、不理解とか偏見がまだまだあります。だからこそ、私たちの取り組みというのは、常に地域の中に入り込み、利用者のいきいきとした姿を前面に出しながら、障害者理解を進めなくてはなりません。今年、町と地域にバックアップいただきながら、四辻地区にグループホームと弁当工房がつしよになった「桜谷なかまの家」と、金屋地区の工芸の里の中にパン工房を開設することができ、新たな拠点ができました。こうやって、新たに四辻や金屋の地域に入らせていただいた、これがまた新たな始まりでもあると感じています。

立場から山口さんお願いします。山口 障害者福祉センター「夢織りの郷」の山口です。今年で開設十一年目を迎える夢織りの郷では、障害者の立場に立ち、障害のある人たちがどうしたら地域の中で、一人の人間として、本当に自立といえる当たり前の生活が送れるかということを考えながら日々やってきました。ただ障害の問題というのは、まだまだ特別というのか、差別まではいなくても、不理解とか偏見がまだまだあります。だからこそ、私たちの取り組みというのは、常に地域の中に入り込み、利用者のいきいきとした姿を前面に出しながら、障害者理解を進めなくてはなりません。今年、町と地域にバックアップいただきながら、四辻地区にグループホームと弁当工房がつしよになった「桜谷なかまの家」と、金屋地区の工芸の里の中にパン工房を開設することができ、新たな拠点ができました。こうやって、新たに四辻や金屋の地域に入らせていただいた、これがまた新たな始まりでもあると感じています。

あたらしい福祉のカタチ

連載最終回 座談会

連載最終回は、福祉の現場や地域で福祉に携わる8人による座談会（11月7日・元気館）の様をお伝えします。皆さんの話の中には、「あたらしい福祉のカタチ」を考えるヒントがいっぱいです。

司会：佐賀義之 福祉課長・浪江昭人 同主幹



NPO法人丹後福祉応援団 理事長
三井健史さん
みついたけし 昭和33年生まれ。加悦奥在住。平成13年から現職



高齢者総合福祉施設 虹ヶ丘 施設長
土居正志さん
どいまさし 昭和29年生まれ。明石在住。平成12年から現職

せ、今後策定予定の「地域福祉計画」につなげていきたいと考えています。それでは、8人の皆さんそれぞれの立場からお話しいただきたいと思いますが、初めに「住み慣れた家や地域で自立した生活を送るためには何が必要と考えるか」をテーマとして、自己紹介も兼ねてお聞かせいただきたいと思います。順不同となりますが、まずは高齢者福祉の現場、とりわけ高齢者福祉の拠点としての立場で、土居さんからお願いします。

住み慣れた家や地域で自立した生活を送るために

土居 高齢者総合福祉施設「虹ヶ丘」の土居と申します。虹ヶ丘を岩屋に開設して、ちょうど今年で十年目になります。昭和六十年に特別養護老人ホーム「与謝の園」で仕事を始めたころに比べて何が変わったのかと考えてみたのですが、たしかにサービスの種類や量は格段に増えたと思います。十五年前には、「福祉の世話になる」というような意識がたいへん高くて、サービスを使うことに抵抗感があつたことも事実です。この間、施設に入所されたとしても、できるだけ当たり前の暮らしに近

づける状態にしようと考えてきました。施設への入所が、かわいそうな状態ということではなく、いろんな方が出入りできたり、プライバシーがあつたりと、できるだけ普通の生活ができるようにという思いでやってきました。また障害者の方に関しても、高齢者の施設で働いてもらえらるし、利用もしてもらえらるという方向に少しづつなってきました。十五年前と比べたら、そういう点では進歩があつたのではないのでしょうか。「何が必要と考えるか」については正直むずかしいテーマです。今日は皆さんのお話を聞かせていただきたいと思いますが、ともに考えていきたいと思います。

司会 続きまして、同じく高齢者福祉の現場で、地域密着型サービスの草分けとしてご活躍中の三井さんお願いします。三井 NPO法人「丹後福祉応援団」の三井です。私は、昭和六十年に与謝郡で初めてできた「与謝の園」の開設時から十六年間、特別養護老人ホームの生活相談員という仕事をしていました。その間、土居さんともいっしょに仕事をして、地域にある老人ホームを核として、与謝郡の老人福祉の向上というのを目

こともあるかと思えます。同様に、わんぱくクラブに通室する保護者の皆さんは、我が子の年齢も低い分、いきなり地域の中に出て行くことは少しギャップがあるかもしれません。その点いきなり地域でという前に、町の乳児健診などをさらに充実いただき、保護者、保健師、保育所、療育機関などが連携しながら、共通の理解が深まれば、地域みんなが子どもをしつかりと見守り育てていく、そんな雰囲気や地域の中に広がっていくと思います。そして、そんな空気が地域の中でいっばい感じることができればいいなと思っています。

司会 次は、この連載のひとつのテーマである「地域福祉」の担い手である社協の西原さんからお話ししたいと思います。西原 与謝野町社会福祉協議会の西原です。社協の事業は、地域の皆さんの支えでいろんな事業が展開できているわけですが、テーマについていうと、介護予防の事業とか、地域での支え合いの事業などを展開しています。九月から新たにはじめた介護予防事業は、町から委託を受け、介護度を出していない元気な高齢者の方にクアハウスの利用をし

ことあるかと思えます。同様に、わんぱくクラブに通室する保護者の皆さんは、我が子の年齢も低い分、いきなり地域の中に出て行くことは少しギャップがあるかもしれません。その点いきなり地域でという前に、町の乳児健診などをさらに充実いただき、保護者、保健師、保育所、療育機関などが連携しながら、共通の理解が深まれば、地域みんなが子どもをしつかりと見守り育てていく、そんな雰囲気や地域の中に広がっていくと思います。そして、そんな空気が地域の中でいっばい感じることができればいいなと思っています。

「ふれあいサロン」を加悦地域は八カ所、岩滝地域は五カ所、野田川地域は七カ所です。実施しています。さらに今年度から「高齢者見守り隊」事業を始めました。後から、永濱さんからあると思います。社協職員や町職員、区の役員さんがいっしょになって、地域の高齢者の方をどうするか、また制度にないサービスが地域でできないかということに取り組みをしています。同様の取り組みを与謝地区でも行っており、この事業が地域の皆さんの協力を得ながら全ての地区でできるようになればと思っています。一方で、地域での支え合いといっても、若い人が地元に残らないということ、また仕事が無いということで、公的なサービスだけで要支援者を支えるということがなかなか困難になってきているとも実感しています。

「司会」このテーマとしては最後となりませんが、新しく福祉事業を立ち上げ、地域に足を運んでおられる視点から、沖上さんお願いします。沖上 NPO法人「あまのはしだて座」の沖上です。私たちの事業は、「あらゆる人の集いの場に、笑顔と楽しいという気持ちをお届けしたい」をキャッチフレーズに、南京玉すだれや皿回しなどの大道芸と、レクリエーションの手法を使ったゲームなどで、笑顔を引き出す活動を中心に行っています。テーマについていうと、私どもの理念的には、高齢者である方が障害がある人である方が、人間として存在を認めて尊重されることが大切だと思っています。具体的には、今取り組んでいる活動が二つあります。一つ目は、この地域から、障害者や高齢者の手によって仕事起こしを実現させたいということ。若くて元気な人や高齢者の力を借りて、仕事起こしが実現できれば、その存在

司会 続きまして、地域でいろんな事業を支えていただいている、四辻区長の坂根さんから地域の視点でお話しいただきたいと思っています。坂根 四辻区長の坂根です。与えられたテーマの答えを言えば、区長としては、こと福祉に関しては不安がいっぱいだと思います。が正直なところです。先ほど西原さんも言われたように、地域では少子高齢化というのが進んで、すでに多くの隣組で地蔵盆ができないところもたくさんあります。これは、隣組で支え合う機能が失われてしまっているということを物語っています。四辻区では、防災マニュアルを作成するにあたって、単独の隣組では機能しないということから、隣組をまとめて一つの班として、若い人に支援の立場に立つてもらおうという組織作りをしました。しかしながら、八十歳以上の独居者が増えてきていることが顕著になってきています。ので、十分な対応ができるのか非常に不安です。それと、もう一点は、経済状況が非常に悪いということ。地域の経済が冷えきること、若い人がこのまちから離れてしまい、残った人は年を重ねるにつれて支援をす

が認められ、その人その人が尊重されるということにつながるのではと考えています。二点目が、日本三景天橋立を近くに抱えるこの地域で、ユニバーサルツーリズムの実現ができないだろうかと考えています。ユニバーサルデザインとは、障害の有無、老若男女を問わず、みんなにとって使いやすいデザインのこと、それにツーリズム、旅行を加えたのが、ユニバーサルツーリズムです。トイレに入りやすい、飲み込みがしにくい人が安心して飲み込みができるような食事を提供してくれる店があるなど、旅行者の立場から見た福祉のまちづくりを考えると、いうことで、神戸市では実践が進んでいます。同じことをこの地域でもできないだろうかと思、車椅子生活をされている方に協力をいただき、公衆トイレの調査を行いました。この方は介護サービスを受けて生活されていますが、やりたいことはあるのに体が不自由で、「外出もままならない」と言われており、したので、「障害があるからこそ、できることがあるのではないか」とお誘いをして、協力をお願いしました。まとめたものを福祉施設に持っていくと、「出掛



四辻区 区長 坂根 學さん
さかねまなぶ 昭和15年生まれ。四辻在住。平成17年から現職



与謝野町社会福祉協議会 事務局長 西原 成さん
にしはらしげる 昭和27年生まれ。与謝在住。平成19年から現職



わんぱくクラブ 指導員 太田垣美千代さん
おおたがきみちよ 昭和29年生まれ。伊根町在住。平成16年から現職



障害者福祉センター 夢織りの郷 施設長 山口 薫さん
やまぐちかおる 昭和29年生まれ。温江在住。平成9年から現職

ける時の参考になる」と評価が得られました。すると、その人は役割が認められたことで表情も明るくなってこられます。地域で自立するためには、高齢者である方が障害がある人だろうが、その人の役割がいきいきと発揮される取り組みが必要ではないかと考えています。司会 皆さんありがとうございます。さ、ここからは、今お話しいただいた中から話題を絞って進めていきたいと思いますが、いかがでしょうか。土居 独居の問題とか、災害対策、また生きがいづくりの問題など、いくつポイントがあったかと思えます。司会 そうですね。やはり地域で暮らしていこうと思えば、生きがいづくりはたいへん重要なことです。まずこれを取り上げ、その後、災害対策も大切なことですので、こちらは後からお話しいただくことにします。

一人暮らしの方のところにはメンバーが各戸訪問をして調査に回り、その中でわかったことがあります。それは、高齢者の方は町や社協が実施しているいろんな福祉サービスについて、あまりご存知ないということです。また、今のサービスは介護認定を受けておられる方を対象としたものがほとんどで、「元気に一人暮らしでもがんばって生活している人」には、利用できる制度が少なく、利用できない方が多いと思います。そこで私たちが考えているのが、元気な高齢者と、介護認定を受けておられる要支援一とか二くらいの方が一緒になって、垣根がない集まりをしてもらえるような「場」をつくってほしいなということです。今後は、アンケートを集約して、どういう要望があり、どういうことを考えておられるのかを整理して、できる範囲のことを考えて、いろんなサポートをしていきたいと考えています。先ほどから出ていますように、ここは田舎ですが、だんだん水臭いような関係ができてつづります。そのあたりを見つめ直し、「サポートい輪やがいろいろと調べたり、いろんなことをしと

る側から支援が必要な人となります。このあたりをこれからどうしていけばよいかということですが、地域における大きな課題ですし、おそらく町内の二十四地区における共通の悩みだろうと思っています。司会 同じく地域で、個人と地域を結ぶ立場でご活躍されています。永濱さんお願いします。永濱 この春に「サポートい輪や」というボランティアグループを立ち上げ、その代表世話人をしていきます。毎年町で行われている防災訓練について、サポートい輪やを立ち上げたメンバーの一人と「実際に災害が起きたときの対応はこれでもいいのか」と話をしていました。そんな時、加悦奥で「サポートかやおく」が福祉マップを作られているという話を聞き、同じように、岩屋の状態を調べてみようということで、五・六人が集まって防災マップを作成しました。これをきっかけに活動を開始したわけですが、防災面ばかりではなく、今高齢者の方々が「生活の中で何に困っておられるのか」「希望されていることは何か」ということも調べようというところで、高齢者世帯へのアンケート調査を実施しました。

実状としては、その方たちが提供できることと事業者が求めるものにはミスマッチもあり、雇用につながるというのは難しい面もあります。しかしながら、生きがいづくりを考えたとき、高齢者の雇用につながる取り組みをしていかなければならないかと思っています。永濱 土居さんが言われたように、元気な高齢者の方は「我々も何か役に立つことができるのでは」という思いを持っておられます。実際、「自分たちにもできることを考えてくれないか」ということもよく聞きます。先ほどおっしゃったように、「元気なお年寄りさんは、多少手助けが必要な方と一緒に何か取り組むことで、お互いにいい方向にむかうと思うんです。坂根 生きがいづくりに高齢者の力を活用するという取り組みは、徳島県上勝町の「はっぱビジネス」など全国で成功事例があると聞きます。そういうところでは、高齢者が「テレビも観とられへん」と、背筋をしゃんと伸ばし、元気に活動しておられます。与謝野町でも、酪農をやっておられる方が、今までお金を出して処分していた糞を肥料に加工して販売して成功され

ています。町内にもグラウンドゴルフに行かれる元気な方はたくさんおられますので、この地域でできることや、この地域ならではの発想を利用してあげ、それが生きがいづくりにつながるのではないのでしょうか。
司会 社協では、生きがいづくりという観点で、各地域において「ふれあいサロン」を実施されています。
西原 サロンの内容はレクリエーションや勉強会などです。体制については各地域で異なりますが、男性の参加が少ないのが現状です。内容的に手芸をしたり料理をしたりということで敬遠されているのかもしれませんが、まだまだ参加したい人はおられると思いますので、内容を考えたい必要があります。
山口 障害者の生きがいという立場でいうと、やはり一人の人間として、社会自立していくためには所得保障を含めた仕組みといたした裏づけの中で、地域の理解を得ながら自立していくということになると思います。これには、事業所の方々のご理解が必要で、全国の障害者施設の中には、遊休農地の農業組

合の方々と施設が連携して、障害者自身が農業の担い手となって成功している例もあります。
永濱 私もそういった先進地を視察したことがあります。障害があっても、体が不自由であっても、働くことによつて賃金がもらえるということが、生きがいとなっていることはたしかですね。
三井 あくまで構想なんです。常設の「福祉市場」のようなものができないかと考えています。高齢者や障害者の方々が作ったものを自ら販売し、地域の方とコミュニケーションをとれるようなところができたら、これも生きがいにつながるのではないのでしょうか。
沖上 わたしたちは活動の中で「ふるさとの伝承」といって、この地域に埋もれた民謡など、昔ながらの歌を探しています。以前、さまざまな年代の人に聞いても分らない歌があった時、与謝の園のデイサービスにお邪魔して、その歌についてたずねていると、百二歳のおばあさんが「子どものときに聞いた」と、踊りを交えながら歌を教えてくださいました。このように、高齢者や障害者を福祉の対象としてとらえるだけではなく、文化だ

くことも必要ではないかなと感じています。
地域での福祉事業者の役割
司会 今ありましたように、災害時に限らずですが、社会福祉事業者が持つておられる専門性やノウハウというものを地域に還元する仕組みづくりが、今後求められていくようにも思います。
太田垣 わんぱくクラブとしては、この与謝野町で子育ての拠点となる、センター的な役割を果たしていきたいという願いを持っています。そのひとつとして、六月と十月に、保育所入所前の親子の遊びの場として「わんぱくあそびの広場」を実施しました。わんぱくクラブで日頃活動しているノウハウを用いて、手遊び・リズム遊び・わくわくする親子遊びなどを紹介しました。また、「ちよつと子どものこと」で話を聞いて「と、どなたでも寄っていただけるような、子育ての駆け込み寺のような、そんな居心地のよい居場所づくりを目指していきたいと思っています。そして、いろいろな情報も発信していきたいと思っています。
司会 居場所づくりという話がありました。その居場所をつ

と仕事だとか、そういった視点から見てみると、新しい発想が生まれてくるのではないかと感じています。
災害時の要支援者対策
司会 さて次に、災害時の要支援者対策について皆さんにお話しいただきたいと思えます。まずは永濱さんから岩屋での取り組みについてお聞かせください。
永濱 我々はボランティアといいますが、個人情報を取り扱っていますので、その点は注意しています。当然使用目的を説明して、署名・捺印をいただいています。ただ、ある程度の中身を聞かないと、いざという時に必要な支援ができません。先日、岩屋区長と話す中で「来年の防災訓練は、岩屋だけでも実践的な訓練をやるよ」とまとまりました。幸い岩屋区には、夢織りの郷、虹ヶ丘と両施設がありますので、ストレッチャーやリフト車、夢織りの郷の床暖房付きの体育館を避難所に借りるなど、そういうところを利用していただいで、より実践的なものにしていきたいと考えています。訓練を通して区民も施設に足を運ぶことになりまして、今まで以上に、いい関係もできると思いま



取材を終えて…
時代は変わった。制度は変わった。だからこそ、今の時代にあった「あたらしい福祉のカタチ」があるのではないかと思います。この連載を開始した。取材現場では、真剣に福祉に向き合う人、福祉サービスを受けながら目標をもって取り組む人、わが子の障害に悩みながらも前向きにがんばる人など、いろいろな人に出会った。その中で再確認したのは、福祉の原点ともいえる、お互いを支え合い、思いやりを持つことの大切さだった。これからも時代とともに、「福祉のカタチ」は変わっていくだろう。けれども、変わらないもの、いや変わってはいけないものは、「支え合いの心」なのではないだろうか。



NPO法人あまのはしだて理事長
沖上 洋さん
おきがみよう 昭和36年 生まれ。宮津市在住。平成16年から現職



サポートい輪や代表世話人
永濱誠彦さん
ながはまのふひこ 昭和22年生まれ。岩屋在住。平成20年から現職

くるためには、経験が必要な部分もあると思います。ボランティアの人が集まって全部やれるかという、なかなかそうではない部分もありますので、そこに対する、何らかの助言なり指導ができる仕組みづくりが、地域の中で行われることも今後期待されます。
永濱 お手伝いはボランティアができますが、いろんな事業を行う中では、専門家の手助けが必要になることもあると思います。
与謝野町の福祉とは
司会 与謝野町の福祉についてご意見や思いがありましたらお願いします。
太田垣 「子育てするならこのまちで」と、与謝野町内で子育てをしている方々からよくお聞きします。これからの未来を担う子どもたちにとって住みやすいまちというのは、誰にとってもやさしいまちだと思いますし、与謝野町らしい保育や教育がこのまちの魅力となるのではないのでしょうか。
沖上 以前手話通訳という仕事で舞鶴にいた当時、舞鶴市では「福祉の舞鶴ブランドを築きあげる」というキャッチフレーズ

す。どうしても災害時には、行政や区役員さんは自分の持ち場につかれるわけで、実際に誰か動くかというところ、一般住民しか動ける体制をとっておくかということが大事だと思います。
西原 たしかにそのとおりです。台風二三号のときに、そういった体制づくりの必要性を痛感しました。
土居 災害時の福祉避難所については知っていましたが、ただ私たちの施設が災害の時にどのように役立てばいいのかということについては、これまで教えてもらったり、考えたりしたことほとんどありませんでした。今永濱さんがおっしゃったように、ともに考えたり、訓練できたりすればいいなと思っています。
三井 加悦奥の場合、公民館が災害時のメインの避難所になっています。しかし、介護が必要な方の場合、そこにはいけないことも想定されますので、小規模多機能型居宅介護施設を要介護者の方たちの避難所として活用してはどうかと「サポートかやおく」の集まりの中でも意見として出ていました。
土居 私たちも地域密着型の小

を掲げていました。むしろ私は、与謝野町のほうこそ、「福祉の与謝野ブランド」ができるのではないかとその雰囲気を感じています。
永濱 いろんな垣根をとってということを先ほど言わせてもらいましたが、これは行政についても同じです。福祉計画をつくるのに、福祉課だけが関わるところではなく、いろんなところが連携し合ってもらえば、よいものができるはずなんです。
山口 夢織りの郷を岩屋で始めたときの原点に戻りますが、福祉で与謝野町が活性化し、福祉で雇用が創出されるというように単に自分の分野のことだけではなくて、今日を契機に、それぞれの役割として何ができるのかということも考えながら、定期的な情報交換を行いたいですね。一同（うなずく）
司会 これをもって座談会を終了させていただきます。与謝野町の福祉を考える貴重なヒントをたくさん出してください。皆さんありがとうございます。



●あなたが選ぶ日本一おいしい米コンテスト
京の豆っこ米が決勝進出

全国から出品された米を、公募審査員が食味計に頼らない人間の舌だけで審査し、日本一おいしいお米を決める「第2回あなたが選ぶ日本一おいしい米コンテスト」の決勝大会(11月29日・山形県庄内町)に、鳥垣昭さん(加悦奥)の「京の豆っこ米」が出品されました。

全国各地の303の米の中から予選を突破した30の米が決勝大会にエントリー。鳥垣さんのお米は、惜しくも1回戦で敗れましたが、「京の豆っこ米の価値が認められたのでは」と笑顔で話してくれました。



有機肥料を使用して米を作り続けて十数年という鳥垣昭さん

●車イス体験レース
車イスの乗車を体感

「障害者週間」(12月3日～9日)期間中の12月7日、阿蘇シーサイドパークで「車イス体験レース」が行われました。

この事業は、車イスの体験乗車ととして障害や障害のある人に対する理解を深めてもらおうと、与謝野町障害者福祉会が障害者週間のキャンペーン事業として企画したもので、普段車イスを利用している人や初めて乗る人など三十人が個人やチームで参加。600mの周回コースにかかる予想タイムを自己申告し、実際のタイムとの誤差で競いました。



レースのスタートを切る参加者



大好きな「ぐるんぱのようちえん」の前でハイチーズ

●三河内幼稚園作品展
みんな大好き「ぐるんぱのようちえん」の世界を表現

恒例の「三河内幼稚園作品展」が12月13日から15日まで開催され、たくさんの方の来場者でにぎわいました。

三河内幼稚園では、造形活動を通して豊かな表現力を育てることを目的に作品展が毎年開催されており、今年は園児たちの大好きな絵本「ぐるんぱのようちえん」をテーマにした作品が展示されました。園児らは地域の協力を得ながら、ぐるんぱ(象)の色塗りをしたり、人形を手作りしたりして、約1ヵ月半の制作期間を経て、見事な作品を完成させました。



自分で織った布を眺める参加者

●手機講習会
世界で自分だけの織物を制作

手機講習会が11月8日と12月7日、織物技能訓練センターで行われました。

今回の講習は、使わなくなった着物や風呂敷、布地などを使った「裂き織り」を行うもので、参加者がそれぞれ持参した1センチ程度に裂いた布を手機により織り上げました。元の布からは想像できないような色合いや、裂き織り独特の風合いに仕上がった作品(布)に満足するとともに、手機の楽しさを知った日となりました。

●人権問題を考える集い
転んだら起きればいい

「平成のかけこみ寺」として、問題を抱える思春期の子どもたちを預かり、自立と社会復帰を支援する熱血和尚として知られる廣中邦充さん(西居院住職)を講師に迎え、「人権問題を考える集い」が12月11日、野田川わーくばるで開催されました。

講師は「転んだら起きればいい」をテーマに、経験にもとづく実践的教育論を展開。「子どもの心の叫びを親が感じとらないといけない。地域も子どもを見守って」という熱のこもった話に、参加者は真剣な眼差しで聞き入っていました。



会場を所狭しと動き回り、教育論を熱く展開した廣中邦充さん

●与謝野町子ども発表会
心に響いた子どもたちのメッセージ。

「与謝野町子ども発表会」(与謝野町青少年育成会主催)が11月30日、知遊館で開催されました。町内の小中学校と加悦谷高校から13人の子どもたちが壇上に立ち、体験を通して学んだことや将来の夢など、さまざまなテーマで発表。また、地域の人といっしょにボランティア活動や体験活動を行う小学生グループ「よさのキッズ」の子どもたち23人からも発表があり、訪れた人たちは真剣に語りかける子どもたちのメッセージに耳を傾けていました。

<p>駅伝を通して かやま りょうが 香山 稜河くん 三河内小6年</p>	<p>少女バレーで 学んだこと ひろの ももせ 廣野 百星さん 市場小6年</p>	<p>将来の 与謝野町 わだ たくや 和田 拓也くん 与謝小6年</p>	<p>この体験を いつまでも 忘れずに むらかみ まお 村上 真央さん 石川小6年</p>	<p>今、思うこと たにくち ゆうき 谷口 優貴くん 岩屋小6年</p>
<p>わたしの あったか タウン たかの るい 高野 瑠依さん 加悦小5年</p>	<p>エコロジ スクールに 参加して おかの こうた 岡野 晃太くん 山田小5年</p>	<p>学校生活を 振り返って よしおか ななこ 吉岡 菜々子さん 岩滝小6年</p>	<p>強くなった 自分 まつもと あやか 松本 彩佳さん 桑飼小6年</p>	<p>あいさつの 大切さ こにし あつや 小西 敦也くん 加悦中3年</p>
<p>おとう ほそい すなたろう 細井 砂太郎くん 橋立中3年</p>	<p>部活の大切さ きむら たくろう 木村 拓郎くん 江陽中3年</p>	<p>様々な 取組から 学んだこと しながわ あやか 品川 綾香さん 加悦谷高3年</p>	<p>今年の活動について報告 よさのキッズ</p>	



所得税・町府民税の申告相談と受付は3月16日(月)まで

☎ 税務課 ☎ 44-2084

●**町府民税の申告の必要な人**
 平成二十一年一月一日現在、与謝野町に居住している人は申告書を提出してください。所得のない人もその旨を申告してください。
 ただし、次に該当する人は改めて申告書を提出する必要はありません。
 ◎所得税の確定申告を提出された人
 ◎給与所得だけで勤務先から給与支払報告書を出された人
 ◎税法上の扶養親族になっている人
 ◎公的年金等に係る所得のみの人で、所得割の納税義務を負わない人

●**所得税の申告の必要な人**
 ◎事業をしている人や不動産収入のある人、土地や建物を売った人などで、平成二十年中の所得の合計額が各種所得控除の合計額より多い人。
 ◎給与と収入金額の合計額が二十万円を超える人。
 ◎給与を一カ所から受けている人で、給与所得および退職所得以外の所得が二十万円を超える人。
 ◎給与を二カ所以上から受けている人で、年末調整を受けていない給

混雑解消のために
ご協力をお願いします

- お願い①
申告書が郵送されてきた人は、必ず開封し、住所・氏名・フリガナを記入しておいてください。
- お願い②
事業所得（営業、その他事業、農業所得）や不動産所得のある人は、収支内訳書（少なくとも、必要経費を項目別に年間分を計算）を記入して持参してください。

●申告相談の日程

相談先	相談会場	2月										3月										相談時間	対象税目		
		16日(月)	17日(火)	18日(水)	19日(木)	20日(金)	23日(月)	24日(火)	25日(水)	26日(木)	27日(金)	2日(月)	3日(火)	4日(水)	5日(木)	6日(金)	9日(月)	10日(火)	11日(水)	12日(木)	13日(金)			16日(月)	
税務署職員	宮津税務署	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	9:00~17:00	所得税	
税理士	与謝野町商工会本所		○			○			○														9:30~16:00	所得税	
	同加悦支所		○			○			○																
町役場税務課職員	同岩滝支所			○			○			○															
	元気館		○	○	○																			9:30~15:30	所得税 住民税
	知遊館								○	○	○														
	野田川庁舎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	9:00~17:00	

※税理士による無料税務相談の受付は9:30から15:30までです。ご注意ください。
 ※相談時間については、いずれも12:00～13:00までは休憩です。

功績・功労をたたえて



12月19日に行われた学習会の様子

京都府保健医療功労者表彰
与謝野町食生活改善推進員協議会

保健医療や救急医療、看護業務に顕著な功績のあった個人・団体に贈られる「平成二十年度京都府保健医療功労者等知事表彰」がこのほど発表され、与謝野町食生活改善推進員協議会（上田恵子会長が、「健康づくり部門」で保健医療功労者表彰を受賞されました。同会は、料理講習会の開催等をおして、健康づくりの輪を広げるなど、地域や学校での食生活の改善に取り組み、地域住民の健康づくりに貢献してこられたことが評価され、今回の受賞となりました。

厚生労働大臣感謝状
戸田直喜さん（後野）

安藤孝則さん（岩滝）

「平成二十年度食品衛生功労者・食品衛生優良表彰」がこのほど発表され、戸田直喜さんに厚生労働大臣から食品衛生指導員感謝状が、安藤孝則さんに社団法人日本食品衛生協会理事長から食品衛生指導員感謝状がそれぞれ贈られました。



戸田直喜さん



安藤孝則さん

この表彰は、食品衛生の普及向上と業界の指導育成等に功績があった人や、優良な衛生施設を厚生労働大臣が表彰するもので、今年度は食品衛生法施行六十周年にあたるため、厚生労働大臣と社団法人日本食品衛生

協会からそれぞれ、食品衛生指導員、食品衛生協会役員などに感謝状が贈呈されました。戸田さんは、若くから宮津与謝衛生協会の支部役員を務められ、平成十五年からは宮津与謝衛生協会副会長として地域や宮津与謝衛生協会の事業運営に尽力され、食品衛生指導員として食の安全・安心への高い意識をもって食品衛生の向上に貢献されています。

安藤さんは、平成五年から食品衛生指導員として、積極的に地域や宮津与謝衛生協会の事業活動に参加して指導され、食品衛生の向上に貢献されています。これら食品衛生の普及向上に貢献されたことが評価され、今回お二人に感謝状が贈られました。



和田敏子さん

京都府農林水産業功労者表彰
和田敏子さん（与謝）

番 晃さん（明石）

十一月二十九日と三十日に京都府総合見本市会館で行われた「京都府農林水産フェスティバル2008」で、和田敏子さんが京都府農林水産業功労者表彰を、番晃さんが第一回京都府若手農林漁業者表彰をそれぞれ受賞されました。

功労者表彰は、長年、農林水産業・農山漁村の振興と発展に功労のあった人や団体を表彰するもの。また、今年度創設された若手農林漁業者表彰は、農林水産業の経営改善や農山漁村地域の活性化に意欲的に取り組む三十九歳以下の農業者に



番晃さん

贈られました。「みのり会支部会」代表の和田さんは、地元産の減農薬米や大豆を原料に麴や味噌作りを続け、その技術を近隣町へ提供して新たな麴製造活動を支援するなど、手作り味噌の伝承普及と日本型食生活を見直す食育活動に貢献されています。番晃さんは、平成十年に大阪府から新規農業者の研修生としてインターンし町内の農園で研修後、独立。現在は農家の高齢化が進む中、作業を請け負う組合を設立するなど、若い担い手として期待されており、今後は自分のような研修生を受け入れ、担い手を育てたい」と意欲をみせておられます。お二人は、これらの功績や意欲が評価され、今回の受賞となりました。

今月の納期
2.2 (月)まで
町府民税 4期
国民健康保険税 8期

夜間納税相談窓口
1.28 (水)~30 (金)
いずれも午後8時まで
野田川庁舎 (税務課)
※納付書、納税通知書、
印鑑を持参してください。

与謝野町役場
☎46-3001 (代表)

岩滝地域振興課
☎46-3002

総務課 ☎46-3003
☎46-3004(消防安全係)

企画財政課 ☎46-3084
☎46-3085(情報システム係)

建設課 ☎46-3267

商工観光課 ☎46-3269

会計室 ☎46-3007

野田川庁舎
☎44-2081 (代表)

野田川地域振興課
☎44-2082

住民環境課 ☎44-2083

税務課 ☎44-2084

水道課 ☎44-2085

下水道課 ☎44-2086

加悦庁舎
☎43-1511 (代表)

加悦地域振興課
☎43-1512

福祉課 ☎43-1513

保健課 ☎43-1514

農林課 ☎43-2191

議会事務局 ☎43-0215

教育委員会 教育総務課 ☎43-2192

教育委員会 教育推進課 ☎43-2193

江山文庫俳句大賞が決定しました

☎ 教育委員会 教育推進課 ☎ 43-2193

「第十三回江山文庫俳句大賞表彰式」を十一月三十日、選者である現代俳句協会会長の宇多喜代子さん出席のもと、加悦地域公民館で開催しました。

昨年引き続き、テーマを「きもの」「ひまわり」「自由題」の三句一組で募集していたところ、全国四十四都道府県から、四百九十七人、千四百九十一句の応募があり、次のとおり入賞作が決定しました(敬称略)。



表彰式の様子。表彰式の前には記念俳句会も行われ、たくさんの人が参加しにぎわいました

- 江山文庫大賞**
働きに
行く向日葵の
道抜けて
安田 悦子 (与謝野町)
- 与謝野町長賞**
二百十日
ゆったりと着る
野良着かな
谷口壽々菜 (三重県)
- 教育長賞**
向日葵と
同じ空気の
中に起つ
婦木 文代 (兵庫県)
- 宇多喜代子賞**
大江山
よりまろまろと
盆の月
細井 貴子 (与謝野町)

森林ボランティアに参加して森林の良さを満喫しました

☎ 農林課 ☎ 43-2191

近年、地球温暖化をはじめとする環境問題は地球規模の取り組みとなってきました。天橋立の世界遺産登録運動や、阿蘇海を浄化するために農業の使用回数減らすよう呼びかけるなど、さまざまな取り組みを実施しています。

そうした中、身近にある森林にふれてもらい、森林整備の大切さを知ってもらうと、森林ボランティア事業を十一月三十日、男山地区に開通した林道下谷線沿いで行いました。



下谷林道の開通を祝いテープカットも行いました



当日は雨が降りましたが、森林整備を行う参加者

「自然観察会では、林道沿いを散策し、京都府の職員から森林機能や木々の名前、放置竹林の現状について説明を聞きました。その後、六班に別れ、森林保全に悪い影響を与えるといわれる竹を伐採。実際にノコやナタで竹林整備を行い、箸とお碗を作製しました。作業終了後には、男山地区婦人会の皆さんにより、地元で獲れたおいしいイノシシ汁や、混ぜご飯で作った岩滝名物「てっぽう」が振る舞われ、参加者はおいしい料理に舌鼓をうち、楽しい秋のひとときと森林の良さを満喫していました。

11月入札結果

☎ 総務課 ☎ 46-3003

入札日	工事番号	工事名	工事概要	施行場所	業者数	落札業者名	予定価格 (千円/税別)	最低制限価格 (千円/税別)	落札金額 (千円/税別)	落札率 (%)	工事期間
11/5	20与住宅管工第5号	町営算所団地他住宅用火災警報器設置工事	火災警報器設置工	算所ほか	6者	矢野電器(株)	3,200	2,641	2,912	91.0	H20/11/11 ~ H21/1/16
11/5	20与道橋新工第20号	平和通倉梯線側溝整備工事	自由勾配側溝工・樹設置工	岩滝	4者	足立石油(株)	2,339	1,862	2,080	88.9	H20/11/13 ~ H21/2/20
11/5	20与特下第22号	幾地地区面整備①工事	開削工・人孔設置工・公共汚水樹設置工	幾地	4者	江笠建材(株)	7,701	6,081	6,850	88.9	H20/11/15 ~ H21/1/30
11/5	20与特下第23号	滝地区面整備①工事	開削工・人孔設置工・公共汚水樹設置工	滝	13者	(株)三野工務店	13,384	10,595	12,030	89.8	H20/11/17 ~ H21/3/25
11/5	20与特下第24号	滝地区面整備②工事	開削工・人孔設置工・公共汚水樹設置工	滝	13者	(株)丸正組	14,615	11,582	13,000	88.9	H20/11/14 ~ H21/3/25
11/5	20与特下第2号	特環公共下水道実施設計委託業務(その1)	公共下水道実施設計業務	滝ほか	7者	(株)日新技術コンサル タント宮津出張所	17,703	—	15,000	84.7	H20/11/7 ~ H21/3/25
11/5	20与特下第3号	特環公共下水道実施設計委託業務(その2)	公共下水道実施設計業務	岩屋ほか	7者	日本上下水道設計(株)京都出張所	19,469	—	14,000	71.9	H20/11/7 ~ H21/3/25
11/5	20与水改第12号	下水道関連配水管布設替(加悦地区③)工事	配水管布設替工・仮設配水管工	加悦	8者	山崎工務店(株)	2,806	2,341	2,490	88.7	H20/11/6 ~ H21/1/30
11/5	20与水改第14号	市場簡易水道第4号取水施設導水管布設工事	導水管布設工	四辻	8者	(株)山田電気商会	4,709	3,935	4,200	89.1	H20/11/10 ~ H21/3/25
11/5	20与水改第13号	市場簡易水道第4号取水施設新設(電気計装設備)工事	取水井電気計装設備工・附帯設備工・その他	四辻	4者	桐田機工(株)	19,985	16,983	16,983	84.9	H20/11/12 ~ H21/3/25

訂正とお詫び
『広報よさの12月号』(P16)の阿蘇海等環境改善啓発ポスターコンクール入選者の「塩見奈那さん」の名前に誤りがありました。訂正してお詫びいたします。

この欄で紹介する出生とお悔やみは、11月16日から12月15日までの届け出分です。役場窓口で届出の際に希望された方のみを掲載しています。

お悔やみ
(敬称略)

町内に配布している
広報誌には掲載しています



おめでとうござります
(敬称略)

町内に配布している
広報誌には掲載しています

まちのうごき
平成20年11月末現在

人口 25,107人 (-4)
男 11,846人 (-5)
女 13,261人 (+2)
世帯数 9,037戸 (+2)